

DM の遺伝子検査について

Ver 4.4

岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科

獣医内科学研究室

小畠 結

当研究室では、コーギーの変性性脊髄症（Degenerative Myelopathy: DM）の研究を行っています。現在は、DM の病態発生や治療に関する研究を目的として遺伝子検査を行っています。遺伝子検査の結果によって、主治医の獣医師様と犬の飼い主様に研究へのご協力をお願いすることがあります。詳しくは、「研究へのご協力のお願い」をお読みください。

遺伝子検査だけで DM の診断を行うことはできません。かかりつけの動物病院で必ず他の臨床検査も受けてください。

受け付けている検体は、DM が疑われるコーギーの検体だけです。仔犬または繁殖目的の遺伝子検査は行っていません。

検査を受けるには

検査を希望される場合は、以下の手順で必要書類と検体を提出してください。提出先は2か所ですのでご注意ください。

1. 「DM 遺伝子検査申し込み用紙」を入力し、メール添付

(kobatake.yui.h1@f.gifu-u.ac.jp) で小畠まで送ってください。この用紙の提出がないと、結果の報告ができませんので必ず提出してください。

2. 「DM 遺伝子検査申し込み用紙」をプリントアウトし、全血 0.5ml (EDTA) と一緒に鹿児島大学へ速達で送ってください（冷蔵でなくても結構です）。**検体は梱包剤などで包み、ジップロック等に入れて血液の漏れなどが生じないようにしてください。**「基礎臨床情報シート」や血統書などは同封しないで下さい。

検体送付先

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24
鹿児島大学共同獣医学部臨床病理学研究室
大和 修

3. 「基礎臨床情報シート」と血統書をメール添付で下記アドレスまで送ってください。

メール : kobatake.yui.h1@f.gifu-u.ac.jp

遺伝子検査の費用はかかりませんが、動物病院でかかる費用および血液と必要書類の郵送費用は飼い主様のご負担になります。検査結果はかかりつけの獣医師に報告します。血統書のコピーは家系調査の研究目的のみに使用します。血統書に記載された情報を第三者へ提供したり、公開したりすることはありません。

結果の解釈

結果は「陰性」、「キャリア」、「陽性」のいずれかです。「陰性」と「キャリア」ではDMは発症しないと考えられています。「陽性」の場合は、DMを発症することがありますが（またはすでに発症している）、どのくらいの頻度で発症するかはわかっていません。たとえDMの症状が出ていても、遺伝子検査だけでDMを診断することはできないため、その他の臨床検査を受けることが大切です。

研究へのご協力をお願い

遺伝子検査の結果によって、飼い主様とかかりつけの先生に研究へのご協力をお願いすることがあります。DMの病態解明、新しい治療法の開発のために是非ご協力ください。

遺伝子検査を行った日以降の発症の有無や症状の進行の追跡調査を電話またはお手紙でさせていただくことがありますので、ご協力お願いいたします。同時にDMに対する新しい治療法を開発するために病気の原因についてもっと知る必要があります。そのためには病気となった脊髄の病理検査が必要です。長年家族の一員であった愛犬を送り出すことは大変つらいことではありますが、現在DMと闘っている他の多くのコーギーのために是非研究へのご協力をお願いします。闘病を終えた犬の遺体を献体してくださる方は以下まで電話またはメールでご連絡ください。

※献体は岐阜大学へ直接お越し頂ける方に限らせていただいています（現在、遠方からの献体は受け付けていません）。

お問い合わせ

岐阜大学応用生物科学部
共同獣医学科 獣医内科学研究室
TEL: 058-293-2962（動物病院受付）
Email: kobatake.yui.h1@f.gifu-u.ac.jp
小畠 結